

保護者の皆様

旭川市立近文第二小学校

校長 吉田 晋

平成29年度全国学力・学力状況調査の結果の公表について

今年4月18日に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の本校の結果について、次のように公表します。

【国語】 国語科の学習領域は、次の4つからなります。

- ①話すこと・聞くこと ②書くこと ③読むこと
④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(漢字やひらがなローマ字等)

本校児童は、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について得意であるといえます。これは普段から朝や帰りの会、全校給食等での日々のスピーチの取組や授業でのまとめを子どもたち自身で表現すること放課後学習の継続が効果を上げているといえます。

一方「書くこと」、「読むこと」を苦手としている児童もいます。特に「手紙の書き方」に若干「情景描写をもとに行間を読み取ること」に課題が見られました。そこで、実生活で活用する機会が少なくなっている事項について、文の構成等の学習を進めるうえで工夫をして定着を図ること、読みを深めるための教師の発問を吟味して日常の授業改善を図ることに努めていきます。

【算数】 算数科の学習領域は、次の4つからなります。

- ①数と計算 ②量と測定 ③図形 ④数量関係

本校児童は、どの学習領域においても、多くの児童がしっかり理解しています。これは、日常の授業で、個に応じたつまずきを取り上げながら問題解決的な学習の指導をしている成果と考えます。

一方、本調査の「主として活用」に関して課題が見られました。そこで、身に付けている、知識や技能を活用して問題を解決することや筋道立てて考える課程を重視した授業の充実を図ることに努めていきます。

【児童質問紙調査】

「朝食を毎日食べていますか」「将来の夢や目標をもっていますか」「家で、学校の宿題をしていきますか」という設問には、ほとんどの児童が「はい」と答えています。これは、各家庭の協力もあり、基本的な生活習慣がしっかり身に付いているといえます。

一方「友だちの前で自分の意見や考えを発表することは得意ですか」の設問には、苦手意識があるという結果となりました。そこで、今後も日常でのスピーチ等に継続して取り組むこと授業の中で個の考えを伝え合い、互いに認め合いながら学習の成果をまとめ、自信をもたせる指導を進めていきます。

今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、本校としては、これからも個に応じた指導と学習したことをまとめたり、学習の過程を振り返ったりする指導を徹底していきます。また、御家庭でも家庭学習の充実を今まで同様に継続し、努力したことを認め・励まし、子どものやる気を喚起させるよう御協力をお願いいたします。

以上、何か御不明な点があれば、教頭〔五十嵐〕まで御連絡ください。(57-2201)